

緑地を楽しむ本

『千字文』

小川環城・木田章義 注解

岩波書店



『千字文』(せんじもん)は、「天地玄黄」から「焉哉乎也」まで1000の異なった文字を使って、天文、地理、政治、経済、社会、歴史、倫理

などの森羅万象について述べた、4字を1句とする250個の短句からなる韻文で、書の手本として使うために用いられた漢文の長詩です。作られたのは、中国南朝・梁(502～549)の武帝が、文章家として有名な文官の周興嗣(470～521)に命じ、周興嗣は一夜で千字文を考え、皇帝に進上したときには白髪になっていたという伝説があります。

写真の本は、公益財団法人日本書道教育学会(東京神田)の書道師範コースの教材、また『千字文』はWebでも数多くの情報を得ることができます。

おりしも、2019年1月16日(水)～2月24日(日)東京国立博物館 平成館(上野公園)で特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」が開催されています。

幸い私は展覧会初日に鑑賞することが出来、展示品の質と量に圧倒されました。普通の書道展とはわけが違う素晴らしい展覧会です。

(斎藤光代)

